【山梨県】

東海大学付属甲府高等学校

自然科学同好会

高校生ボランティア・アワード2023

活動理念

「自然を愛し、楽しく学ぶ」

活動内容

【清掃活動】
- 山梨県内河川
- 海岸(静岡県)

【外来種駆除】
- カミツキガメ
- ブラックバス
- ミシシッピアカミミガメ
- ウシガエル(オタマジャクシ)
- ホソオチョウ
- アカホシゴマダラ
- アメリカザリガニ　　など

【生態調査】
- 生物採取(河川、山林、海など)
- 微生物の観察、飼育
- データ化

【標本作成】
- 骨格標本　・樹脂標本
- 透明標本　・昆虫標本

活動目的

私たち自然科学同好会は、「自然を愛し、楽しく学ぶ」をモットーに活動しています。設立当初は近隣を流れる荒川での生物採集および観察、飼育でした。生物採集をしている中で、多くのゴミを目にするとともに、外来種が捕獲されるようになりました。私たちの活動で少しでも生態系の改善につながればと思い、荒川の河川清掃、外来種の駆除を始めました。河川清掃では、NPO法人「未来の荒川をつくる会」と協力し、一昨年より活動しています。昔のような美しい清流だった荒川を取り戻すことを目標とし、外来種の駆除と合わせて、地域に貢献していきます。

私たちの手で

清掃活動

2021年4月より、NPO法人「未来の荒川をつくる会」荒川清掃に参加。また、定期的に行う荒川生物採集の際、必ず河川清掃を行っています。右図は荒川で行っている河川清掃箇所です。下流に行くほどにゴミの量が多く、ゴミの風化が激しいため拾うのも一苦労です。数はこれまでの活動で拾ったゴミの一部です。

毎回の活動でとれるごみの量

ごみ袋の平均　:**70袋**

全てのゴミを適切に分別し、処分しています

命を「いかす」

外来種駆除

荒川、濁川の外来種の駆除を行っております。また、河川に生息する生物だけでなく、河川敷に生息する昆虫も駆除対象です。駆除した生物は、解剖から標本作成を行うことで在来種への影響や生態を調査しています。カミツキガメの腹からは在来種の生物が確認され、生態系に悪影響を与えている可能性が示唆されました。また、卵も確認することができ、自然繁殖の可能性もあるため今後も、捕獲していきます。駆除後は骨格標本などにし、生態の理解に努めています。

今後の展望

【ゴミ問題】
それぞれの河川のゴミを数値化し、分析していきます。現在、荒川水系の清掃を行っていますが、ゴミの分析まではできていません。実際にゴミを拾っていく中で、その場所によって種類が偏っている印象を受けています。それぞれの地域のゴミの種類から捨てられる状況を分析し、少しでもゴミが河川に捨てられることのない環境作りに努めていきます。

【環境・生物】
生態系を継続的に調査し、データ化することで、生態系の変化を長期的に記録していきます。また、生息場所の性質が生物に及ぼす影響を調べ、環境の変化と生態系の変化を照らし合わせた調査をしていきます。

【海洋(ゴミ問題)】
荒川水系だけでなく山梨県内の水源は全て、海へと流れだします。その中でも駿河湾では山梨を源流とする河川から流入するマイクロプラスチックが大きな問題になっています。山梨だけにとどまらず、大きな視野のもと、清掃活動に取り組み啓蒙していきます。今年度は駿河湾に流れ込むマイクロプラスチックについて大学と連携して、対策していきます。

活動団体プロフィール

自然科学同好会は、平成29年に作られた部活動です。部員21名で、普段は学校周辺の生物の採集、飼育、研究を行っています。
ボランティア活動としては、清掃活動と外来種の駆除を行っており、採集場所の生態系を守ることが目標です